





(1)

# 日本の含み資産 女性の活躍支援

● 4 ●

2008年に米国の住宅バブル市場から発した金融危機は瞬く間に世界中に波及し、金融市場にとどまらず先進国、開発途上国の経済発展を大きく後退させている。連綿と見、我々は経済のグローバル化がいに進展してきたかを体験したのである。

経済のグローバル化は単に物の輸出入が活発になることではない。お金を同時に世界を駆け巡っている



多国籍投資保証機関 長官 小林 いずみ

主が期待してきたことも一因である。しかしこれに限らず持っている企業資産・資源をフルに活用し、長短バランスの取れた安定した収益を継続することは一般株主を持つ企業の使命である。「人は企業の資産である。

女性の活用はCSRか？ 女性の活用を社会的責任と捉え、その推進にかかるコストと認識される。収益の伴わない費用は企業経営が得ない。その結果女性の活用はCSRではなく、個人の能力により採用の決定がなされることになる。潜在能力の判定において、出産による退職の

力を最大限に活用し、生産性を向上することに努めることで、女性職員の活用が推進される。採用においても性別による差ではなく、個人の能力により採用の決定がなされることになる。潜在能力の判定において、出産による退職の

高い労働者を確保すること②日本経済の発展に資すること。性別による優劣の先入観は①を大きく阻害する。また、②の課題を解くには現在の人口減少を止めなければならない。女性が働く

途方もないことば万人が周知していることである。が、これを解決しなければ企業の継続も日本の存続も危ぶまれる事態となる。質の高い労働者を長期的に確保することは直接的な企業の利益である。人口が増え購買力が高まるということは企業にとって間接的な利益である。結果どちらも企業の長期的な利益の源となる。女性の活用をCSRとしている企業は、長期的企業戦略に則り女性活用の位置づけを再考すべきである。そこで二つの課題を解決するのが真剣に考えなければならない。

## 女性の活用はCSRではない

女性の活用は私が社会人になった頃と比較すれば格段に進展したといえる。特に最近トップ自ら旗を振って女性の活用を働きかける企業も多々見られるようになった。が、残念ながら、そうした企業の多くがいまだに女性活用をCSRと位置づけている。女性

女性の活用を社会的責任と位置づける根拠とはなんだろうか？ 女性活用への施策が世界各国で活発になってきているが、実際にその活動が実を結んでいる企業では女性の活用は業務運営の一部として行われている。性別の問題はなく、職員一人一人の個別能

可能性が女性の能力のメーン要素ととらえられる可能性があるが、これは修正されなければならない。グローバル競争の社会において、人口減少国である日本の企業がその活動を継続していくには二つの課題に向き合わなければならない。①質の

と出生率が下がるというが、日本社会と企業はまさに①と②の課題に同時に対応するべきを求められている。労働力を確保し同時に将来の人口を増やすには女性が働きながら子どもを産み、育つこと(ワーカー・ママ・パワ

活用をCSRとしている企業は、長期的企業戦略に則り女性活用の位置づけを再考すべきである。そこで二つの課題を解決するのが真剣に考えなければならない。